

報告書原案(第3章～第5章)に係る委員意見及び対応(案)について

No.	報告書 (章)	資料	ページ	委員会	委員 (敬称略)	指摘	対応方針
1	—	—	—	第56回 評価委 員会	灘岡	冒頭に、エグゼクティブサマリーをつけるとよい。1、2ページのサマリーを作る ことによって骨格が分かりやすくなる。	今後、パンフレットやわかりやすい資料など多様な媒体 の活用による情報発信を検討する。
2	—	—	—	第56回 評価委 員会	古米	報告書の普及啓発の観点から、報告書の内容を動画で説明したものと よい。	報告書作成後に検討予定。
3	第3章	資料3-1 資料3-2	—	第56回 評価委 員会	古米	気候変動、社会情勢については、土地利用、大雨、土砂流入等の項目で個別 に示されているが、新規項目として打ち出したものなので、気候変動につい て、まとめを入れるなど明確に示してもらいたい。	第3章総説編に気候変動についての知見をまとめた項 (3.10)を追加した。
4	第3章	資料3-1 資料3-2	—	第56回 評価委 員会	古米	・第3章の詳細版300ページに対して、総説編が9ページでは少ないため、再考 いただきたい。 ・第3章の総説編に詳細編についての引用があるが、いくつかの節は本編に 引用されていない。詳細編の各項目はすべて引用されているべきである。	改めて検討し、詳細編の各項目の引用や気候変動の 項の追加等を行った。
5	第3章	資料3-1 資料3-2	資料3-1:p.7 資料3-2:p.8	第56回 評価委 員会	灘岡	ブルーカーボンについての言及があるが、ブルーカーボンというよりも、干潟 の多面的機能や統括的な生態系サービスの維持・向上という表現の方が適 切である。	ブルーカーボンは、多面的な機能の一つであり、次のと おり第3章総説編、詳細編を修正した。 「藻場・干潟は、水質浄化や生物多様性の維持、ブ ルーカーボン等の多様な機能を有し、良好な水環境を 維持する上で重要な役割を果たしている。」
6	第3章	資料3-1 補足資 料	—	第19回 小委	横山	干潟にどの程度の土砂が供給されているかが重要な情報である。今回の横 断測量の結果で、変化がみられたとまとめられていたが、滞筋は洪水の影響 で変化が大きい。滞筋を外した部分だけで評価すると、若干堆積しているよう にも見える。エリアごとの平均的な高さなどで、もう少し定量的な評価をするこ とは可能か。 2つの測線だけでも問題ない。滞筋とそれ以外で分けて、差分をとって平均す る形でもよい。	追加検討結果を資料3-1補足資料に整理した。
7-1	第3章 第4章	資料3-1 資料3-2 資料3-3 資料3-4	—	第56回 評価委 員会	灘岡	・水温の上昇については、統計的有意性だけでなく、生物にとって有意かどう かの解釈が必要である。 ・低塩分化は、出水等のイベントによるものであり、イベント時に成層化が強 化されていた、ということが重要な着眼点である。成層化について、水温・塩分 と同様に年平均とイベント時とに分けて比べるなどの整理をお願いしたい。 ・1回当たりの降水強度、流量強度は増えており、集中豪雨型になっている。 年ベースでは栄養塩の負荷量は減っているかもしれないが、成層は増え ている。貧酸素水塊の大規模化について、上層と下層の海水密度との差をとるこ とで成層強度の指標となるので、年平均とイベントベースの2段構えで調査し、 そこに焦点を当てて議論してもらいたい。	イベント時の成層強度等、現行のデータで把握出来て いない項目もあり、今後の課題とする。

報告書原案(第3章～第5章)に係る委員意見及び対応(案)について

No.	報告書 (章)	資料	ページ	委員会	委員 (敬称略)	指摘	対応方針
7-2	第3章 第4章	資料3-1 資料3-2 資料3-3 資料3-4	—	第56回 評価委 員会	古米	これまで有明海・八代海を年平均、季節別の変化で評価してきたが、今後は、気候変動によって従来ない大きな出水によりイベントベースで大きな変化が生じて問題が発生する、といった見方をする時期になっている。第3章は状態、状況を提示する章であるので、そういったことが起きていることを記載し、第4章は問題点とその原因・要因の考察を記載する章であるので、低塩分化、赤潮、貧酸素化など、気温変化によって受けている影響の事例を入れながら、これまでの考え方から変えていかなければいけないというメッセージを入れるとよい。	第3章総説編に気候変動についての知見をまとめた項(3.10)を追加した。第4章では、気候変動が生物の生息環境に与える影響を既に確認されている事象と将来予測に分けて整理している。
8	第3章 第4章	資料3-1 資料3-2 資料3-3 資料3-4	—	第56回 評価委 員会	大嶋	・二枚貝のろ過能力について、カキだけでなく他の貝も含めて、ろ過ポテンシャルがどれだけ減ったかは大きな問題である。過去からのろ水力に変化について整理してもらいたい。 ・サルボウの大量へい死の原因に関する記載について、文章がおかしいので見直したほうがよい。	・平成28年度委員会報告で用いた二枚貝の数値モデルを活用したろ水力の推定を検討予定。 ・平成28年度委員会報告に即してサルボウの大量へい死の要因に係る記述を修正した。
9	第4章	資料3-3 資料3-4	—	第56回 評価委 員会	木原	サブ連関図について、太実線の「複数年で影響がある」は、「影響の度合いが強い」とは異なると捉えてよい。それが分かるように明記したほうがよいのではない。	サブ連関図の矢印の書式を修正(太実線→白抜き線)し、凡例を整理した。
10	第4章	資料3-4	—	第56回 評価委 員会	林	・第4章は、平成28年度の問題点と令和8年度の知見が対応していないことが気になる。 ・令和8年度の知見はサブ連関図を基に説明しているが、キーワードになるものを入れるなど、サブ連関図と文章の対応が分かるようにすると理解しやすいのではない。	文章にサブ連関図のキーワードを含めるとともに、新たな知見が得られていない場合、その旨を追記し、サブ連関図との整合を図った。
11	第4章	資料3-3 資料3-4	—	第56回 評価委 員会	古米	第4章において、海域区分の説明は必要である。海域区分とそれぞれの海域の問題点を示したうえで、総説編、詳細編で新たな知見を示している、という構造にしないと理解しづらい。	第2章にて記載予定としており、次回(第21回)の小委員会で原案を提示予定。
12	第4章 第5章	資料3-3 資料3-4 資料3-5 資料3-6	—	第56回 評価委 員会	木原	第5章のサブ連関図と各事業等の関係の図について、第4章のサブ連関図の上に描いたということが分かるようにしたほうがよい。 例えば、「サブ連関図(第4章の付図〇〇)上に描いた 各事業等の関係」のようにサブ連関図の付図番号を併記できないか。	第5章(総説編、詳細編)の図のタイトルを修正し、対応する第4章の付図番号を併記した。 例: 付図5.1.1- 1(1) ベントスの変化と原因・要因との関連 (サブ連関図: 第4章詳細編の付図4.2.1-1)と各事業等の関係(有明海)
13	第5章	資料3-5 資料3-6	—	第19回 小委	速水	個々の事業の細かい課題は、各事業の中の検討委員会で扱うものであり、本委員会では全体的な課題について議論すべきである。有明海・八代海等の全体的問題に対し、どのような再生方策の検討が足りないのか、あるいは重要度があまり高くない再生方策があるのか、議論すべきである。	今回、原案を提示した第6章において第3章～第5章の情報をまとめた上で評価を行った。

報告書原案(第3章～第5章)に係る委員意見及び対応(案)について

No.	報告書 (章)	資料	ページ	委員会	委員 (敬称略)	指摘	対応方針
14	第5章	資料3-5 資料3-6	—	第19回 小委	山本	それぞれの再生方策の成果や課題、現状について、サルボウに関しては2024年か2025年までの情報が記載されているが、ノリ養殖については2023年で情報が止まっており、最新の状況をどのように反映するつもりなのか。全てを揃える必要はないが、可能な限りリアルタイムの情報が入っていた方がよいと考える。	基本的には2024年度までの情報に統一して取りまとめる予定であり、今回の資料では、最新の情報を追加した。 また、藻場・干潟調査は、2024年度～2025年度に調査を実施しており、今回の資料で追加した。
15	第5章	資料3-5 資料3-6	資料3-5:p.22 資料3-6:p.8	第19回 小委	清本	サブ連関図では、「影響が確認されていないもの」を点線で示しているが、サルボウの例では点線のみで結ばれる原因・要因が複数ある、他のボックスを跨ぐ記載があるなどにより、分かりにくくなっている印象を受けた。 また、点線が「他海域では指摘されているが本海域では確認されていない」のか、「影響は推定されるが未確認で今後検討する」のかによって意味合いは異なる。理由を明確にし、重要度に応じて整理すれば、対象事象の主要な要因がより明確になるのではないかと。 連関図・サブ連関図は報告書の重要な成果であり、今後引用されることも想定し、図単独でも誤解を生まないよう、より分かりやすい形への整理が必要である。	点線の凡例を「影響がある可能性があるものの、未確認であるもの」に改めるとともに、サブ連関図間で重複した点線を一部削除した。 また、他のボックスをまたぐ記載がないよう、サブ連関図の配置を整理した。
16	第5章	資料3-6	p.17	第19回 小委	清本	「個別海域」という項目名からは有明海または八代海の区分を想定するが、総説編5.5.2では「個別海域」としながら「有明海・八代海等」を対象とした記述になっている箇所もあり、整理が不明確である。過去には湾奥・湾口など環境特性に応じた検討の必要性も指摘されており、現行の書きぶりを維持するのであれば、「全体方策と個別海域」ではなく、「主要項目とその他の項目」といった整理の方が適切ではないかと。	総説編5.5.2は「個別海域」の記載が誤りであったことから、全体方策としての記載に修正した。 また、海域区分については、No.11のとおり。
17	第5章	資料3-5 資料3-6	—	第56回 評価委員会	灘岡	・流域と沿岸、外洋をつなぐような有明海の環境改善がベースにあるべきだが、そのような研究がほとんどない。 ・関連して、森林の重要性が示されており、泥化についても重要な要素として付け加わっているが、データの出し方をもう少し工夫してもらいたい。泥化対策には作れいだけでなく、流域規模の改善策も論じる必要がある。泥化の要因は、例えば有機分の増大、潮流の減少といった事象があり、湾内の影響も当然ある。その中でコントローラブルな要因は何かを同定し、政策課題として設定できるよう検討いただきたい。	今回、原案を提示した第6章において、平成28年度委員会報告の再生目標に対する達成状況の評価を行うとともに、今後の課題を抽出した。
18	第5章	資料3-5 資料3-6	—	第56回 評価委員会	大嶋	再生目標に対しての現在の達成状況の評価を行い、達成できていないところを明文することで、研究者や行政において不足している対応を明確にしていけるべきではないかと。	No.13のとおり。

報告書原案(第3章～第5章)に係る委員意見及び対応(案)について

No.	報告書 (章)	資料	ページ	委員会	委員 (敬称略)	指摘	対応方針
19-1	第5章	資料3-5 資料3-6	資料3-5:p.3,4 資料3-6:p.1	第56回 評価委 員会	古米	5.1(ベントス)は調査関係の実施と課題、5.2(有用二枚貝)以降は再生方策を実施している事業である。セクションのタイトルの書き方を工夫すべきである。5.1は3章・4章の引用であることを示した方がよい。再生方策としての調査も入っている。	項立てにおいて、ベントスの変化に係る再生方策がモニタリング及び解析調査の実施である旨が分かるように記載しているほか、底質及びベントスの調査結果をまとめた第3章の関係図表を追記した。 また、第6章において、二枚貝の再生方策のうち底質改善や貧酸素水塊に関するものについて、ベントスにも関連する方策として記載した(表6.3.2-1)。
19-2	第5章			第56回 評価委 員会	林	「ベントス」は、有用二枚貝を含んでいるのか、それ以外のものなのか。ベントスに関しての再生方策と課題は、それ以降の個別の有用二枚貝に書かれているものよりもかなり少ないため、あまり対策が取り組まれていない印象を受ける。	No.19-1のとおり。

注1) 第19回小委員会・第56回評価委員会において回答を行った意見については、掲載を省略した。

注2) 資料番号及びページ番号は第20回資料におけるものを示す。